
朝御飯ならよかったのに

モノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朝御飯ならよかったのに

【Nコード】

N89200

【作者名】

モノ

【あらすじ】

「ご飯のお話」ご飯を急いで食べるのはよくないことだと思います

（前書き）

前違うサイトにのせた初めての作品です。
国語の教科書に載ってる話よりも短い超短編です。

「いただきます」

誰に言っている訳では無いのだが、やはり習慣というもので、これを言わないと何か落ち着かない。

僕の目の前には、いつもと変わらない頑丈そうなこげ茶色の木製テーブルがあり、その上には、五分前に炊き上げられ、陶器の茶碗に入れられ、湯気のたっているご飯と、昨晚の残りの、同じく湯気のたっている野菜炒めと味噌汁がある。

僕は箸を右手に持ち、野菜炒めに手を伸ばした。

箸で野菜をつまみ、口に運んだ。

二、三度咀嚼すると、思い出したかのように左手にご飯の入った茶碗を持ち、口の中にかきこむ。

左手の茶碗を置き、そのまま手を右にずらし、味噌汁を手に取り、口元に近づけ、汁と一緒に細かい具も飲み込む。

この一連の動作を何回も休み休み繰り返し、きれいに全てたいた。げた。

「ごちそうさま」

寝起きのばやけた頭に血が巡ってきた。

僕はこれで今日も頑張れる気がしてくる。食は素晴らしい。

歯も磨いた。服も着替えた。顔も洗いなおして、カバンも持った。さあ、今日も元気に学校へ向かおう。テレビの前に置いてある電波時計を見る。そして気づいた。

火曜日 PM 1:20 気温 23度

「ふう……遅刻だ」

じっくり食べ過ぎた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8920o/>

朝御飯ならよかったのに

2010年11月13日21時09分発行